

【高等学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立佐賀北高等学校(全日制)	
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度の重点目標を達成するために、教職員一人ひとりが意思疎通を図りながら、計画的・組織的に教育活動に努め、さらなる学校活性化のための方策について議論を重ねることができた。</li> <li>北高ルーブリック評価表を活用し、生徒が自分自身について振り返りをするという試みを実践し、全体的には生徒の自己有用感・自己肯定感の高まりを確認することができた。</li> <li>新学習指導要領に適合した評価表を作成し、また、探究活動の充実を図るなどキャリア教育の充実を図った。</li> <li>本校のさらなるパワーアップを目指し、生徒・保護者・地域の期待に応えるために、必要な情報が共有できる体制を整える。</li> </ul>	
2 学校教育目標	自主自律と文武両道を重んじる校風の中で、自らの肯定的側面を見出し伸長させることによって、社会の変動に柔軟に対応し、未知の状況を速く乗り越え、より良い社会を実現していくために必要な人間力を育成する。	
3 本年度の重点目標	<p>「確かな学力」を目指した授業力の向上</p> <p>「進路実現」を目指した自己分析力の育成</p> <p>「相互理解」を目指した寛容な心、思いやりの心の醸成</p>	

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
1 ●学力の向上	●授業のさまざまな場面で、主体的・計画的に学習活動に取り組む姿勢を養う。	○「授業で、主体的に学習することができるようになった」と答えた生徒が70%以上。 ○「学習時間を確保し、予習や復習などを計画を立てて勉強することができた」と答えた生徒が70%以上。	・全国模試を通して成績を測定する一方で、指導のポイントを明確にする取組を行う。 ・定期的に志望校調査を行い、進路検討会でその目標を達成するための手立てを明確にする。 ・一定の自宅学習時間を確保させるとともに学習時間確保のためのタイムマネジメントを行わせる。	B	・模擬試験や進路検討会を定期的実施して、生徒の学力を分析したり、向上させるための方策を議論しながら取り組んだ。その結果、「授業で、主体的に学習することができるようになった」と答えた生徒が約70%になり、目標通りに達成できた。 ・定期考査2週間前から1週間、学習時間調査を実施。その結果をもとに、各学年で分析して、学習時間の確保に向けた指導を行った。その結果、「学習時間を確保し、予習や復習などを計画を立てて勉強することができた」と答えた生徒が約70%になり、目標通りに達成できた。	A	・学習時間確保の指導により、目標を達成する生徒が増加したことはよいと思うので、ぜひ継続して欲しい。 ・生徒が主体的に学ぶ指導を、今後も期待する。
	○他者の考えや意見を聞く機会を設定し、生徒に物事についての多様な考えを身につけさせる。	○「総合的な探究の時間や各教科で、協働的な活動の取組ができた」と答えた生徒が70%以上	・総合的な探究の時間を中心に、協働的な取組を積極的に行い、話す能力、聞く能力を育む。 ・学期末にアンケート調査を実施し、協働的な活動によって得られた知識や新たに見つかった課題などに気づかせる。	A	・総合的な探究の時間を通じて、協働的な取組を行い、話す能力、聞く能力の育成に励むことができた。その結果、「総合的な探究の時間や各教科で、協働的な活動の取組ができた」と答えた生徒が約80%になり、目標を大きく超えて達成できた。 ・総合的な探究の時間を通じて、進路先や受験の方法について詳細に研究しながら、様々な将来のあり方について学ぶことが出来た(3年)。また、身近な問題や社会が抱えている課題について深く理解することができた(1年)。 ・小論文講座、小論文講演会を開催し、表現の方法などを身につけることができた(1年)。	A	・協働的な活動やICT機器の活用は、社会人として不可欠なスキルなので、今後も継続して欲しい。
2 ●心の教育	●★生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を育む教育活動	○★「北高ルーブリックの中で自分の成長が感じられた」と答えた生徒が80%以上 ○★「学校は、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身につける教育活動をおこなっている」と答えた職員80%以上 ○★部活動加入率：90%以上	・北高ルーブリック評価表を活用し、生徒の自己の成長を促す。 ・学校行事、部活動、生徒会活動、校外活動等への積極的参加を促進し、他者と協力して共通の目標を達成する力を養う。 ・SOSの出し方教育を行う。 ・スクールカウンセラーによる講話を行う。 ・生徒や保護者の円滑なカウンセリング利用 ・講演会や国際交流を推進し、多様な価値観に触れる機会を設ける。 ・地歴公民、その他の教科における人権教育の実施を呼びかける。	B	・北高ルーブリック12月において、「大変よくできる」と「いいね！」をあわせて80%を超えているのが、13項目中8項目61.5%の達成率であった。また、4月、7月、12月と進むほど「大変よくできる」と「いいね！」が伸びている項目が13項目中6項目あった。 ・次年度も全校生徒対象の「SOSの出し方教育」講演会を実施する。また、1年生の学校不適応者の情報交換を大切に、教育相談部・学年団・保健室と連携を密に図っていく。とくに長期休業明けの8月下旬から9月にかけて生徒の出席状況や学校生活の様子に注意していく。 ・本年度も部活動加入率が9割を超え、ほとんどの生徒が部活動に所属し、活動を行うことができた。また生徒会総務委員の希望者も多く、特別活動に積極的に携わろうとする傾向が見られた。学校行事でも、一人ひとりの生徒が自らの役割を果たすことができ、今年の北高祭では、男女が一緒に後夜祭に参加するなど、新しいチャレンジにも取り組むことができた。 ・中間評価にあげた実施事項に加え、フィリピンからの留学生と文化交流(プレゼンテーション)を行った(1年)。	B	・部活動に限らず、自己肯定感や積極性の醸成への取り組みについて評価できる。 ・児童虐待やいじめの問題もあり、カウンセラーと連携を図りながら、指導を継続して欲しい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ重大事案件数：0件 ○「いじめ」防止等について組織的に対応できていると回答した教職員の割合が70%以上	・年2回のアンケート調査の実施 ・アンケート後1週間以内に集計の完成と情報の共有を行う ・認知の際に各分掌で協力し早期の対応を行う。 ・生徒総会においていじめ撲滅宣言を行い、生徒間での意識の共有を図る。	A	・生徒一人ひとりに対する観察や面談などを通して、いじめなどの問題の予防に努めた。 ・年2回、いじめアンケート調査を実施し、出てきた事案については、迅速かつ丁寧に対応することができた。 ・いじめの早期発見についてはアンケートや学校生活の中で担任、養護教諭、部活動顧問、生徒からの些細な情報でもその背後にいじめはないかまたはいじめに発展する可能性はないかなどを常に考えた上で対応を行った。アンケート調査からの事案については検討委員会、対策委員会を開き、初動的確な情報把握と早期の対応を行った。	A	・いじめについて、些細な事案から取り上げ、早期の対応に繋げていることを評価する。今後も早期発見・早期の対応をお願いする。
3 ●交通安全	○生徒が自主的・自律的に行動でき、自らの行動に責任を負うことができる指導	○「学校は、生徒が自主的・自律的に行動でき、自らの行動に責任を負うことができる指導を行っていると思う」と答えた職員が70% ○「北高生は、生徒が自主的・自律的に行動できている」と答えた生徒70%	・服装や生活について自ら考えさせる指導を行う。 ・校則について生徒会主体で考え遵守する指導を行う。 ・自転車マナーについての指導を行う ・全職員および生徒会と連携し自律した生活を促す。	A	・交通安全に対する講演会、マナー指導、自転車点検などを年間を通して計画的に行うことができた。昨年の事故件数が大幅に減少した。	B	・事故件数の減少は評価できる。今後も指導を継続し、安全確保に努めるとともに、交通マナーの向上に期待する。
	○興味関心の幅を広げ教養を深める中で、豊かな心を育む	○「学校は、読書活動の活性化に努めている」と答えた職員が70%以上 ○「私は、幅広いジャンルの本を読んでいる」と答えた生徒70%以上	・新着案内などの掲示場所を増やし、教室でも掲示場所を固定する。 ・新着案内、朝読書指導などクラスでの活動を増やす。 ・クラス図書(図書カゴ)を復活させる。 ・先生方からの紹介図書のPOP作りを徹底する。 ・文化祭での取り組みを図書委員の主体的なものとする。	B	・新着図書案内を年間を通して発行することができた。どれくらい生徒の情報源となっているかについては検証が必要である。 ・夏休図書委員研修会や地区読書会に図書委員が参加した。 ・文化祭では、図書委員が中心となって図書紹介のコーナーを作成した。 ・青少年読書感想文コンクールに応募し、2年生が毎日新聞社賞を受賞した。それにとない学校賞も受賞した。	B	・読書は心の教育にもつながり大切なもので、これからも指導を継続して欲しい。
4 ●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●「健康に食事は大切である」と考える生徒95%以上	・生活状況調査、食に関する意識調査の実施 ・保健だよりの発行 ・保護者への個別の連絡	B	・2年生を対象に「食育・健康に関する意識調査」を実施し、「ほとんど毎日3回食事をすると回答した生徒が88%、「1日3回食事をしないほうが多い」と回答した生徒が12%であったため、改めて食事の大切さについて保健便りで周知した。	A	・卒業後の健康づくりのためにも、食事の大切さについて指導を継続していただき、学校と家庭の両方から取り組みたい。
	○心身の健康問題に対する自己管理能力の育成	○健康診断(歯科検診)後の受診率を前年度より5%向上させる ○睡眠時間を十分に取れていると考える生徒50%以上	・睡眠に関する意識調査の実施 ・保健だよりの発行 ・生徒への全体指導と個別指導	B	・睡眠に関する学校独自の意識調査は実施していないが、県から依頼された食育・健康に関する意識調査を実施したところ、「健康に睡眠は大切である」と考える生徒は95%で「やや大切」と考える生徒と合わせると99%だった。 ・「北高生の睡眠について考えてみよう!!」というコーナーで引き続き睡眠の重要性について指導した。 ・睡眠時間の短い生徒にアンケートをとり、意識調査を行った。	B	・睡眠の大切さを自覚している生徒が多く、良いことだと思う。引き続き睡眠の重要性について指導を継続していただき、学校と家庭の両方から取り組みたい。
5 ●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●「定時退勤推進日等の設定、積極的な休暇取得の奨励などによって、長時間労働の軽減・解消に対する意識が高まったと思う」と答えた職員が80%以上	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日、年休取得推進期間の設定 ・部活動休業日の設定 ・PCを使っているアンケートが可能なものは利用する。	B	・定時退勤日については、課業中は十分な実施とはならなかったが、長期休業中においてはおおむね実施できた。 ・学校閉庁日、年休取得や部活動について推進し、特に長期休業中を中心に、取得しやすい雰囲気や環境を醸成できた。 ・部活動の休業日については、概ね目標を達成することができた。	B	・業務改善にしっかりと取り組まれている。労働条件などで教員への志望が減少していると思うが、今後も働き方改革を推進して欲しい。
	○教職員の連携促進	○「職員間での意見交換や連携しやすい雰囲気作りができていると思う」と答えた職員が70%以上	・現状に合った取組を考えながら、行事・企画を精選する。 ・業務の進捗状況の共有に努め、職員間のフォロー体制を強化する。	B	・他の分掌と連携しながら行事の精選を行うことができた。社会状況がコロナ前に戻りつつあり、今後も行事の精選を進めていく。 ・運営委員会をはじめ、学年会や校務分掌会で情報の共有に努めた。模のつながりを強化していきたい。	A	・教員間の連携を図り、今後も引き続き業務の効率化に努めていただきたい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
ICTの活用	○ICTを活用した情報収集や情報発信	○「校外の人と必要な情報を共有できるように努めている」と答えた職員が70%	・ホームページ上の学校に関する情報を整理し随時更新する ・学校説明会用の学校紹介資料を作成する。 ・保護者のアンケートでICTを利用して業務削減を行う。	B	・学校だより「録音」で部活動の成績や表彰、行事予定や学校の様子などを定期的に伝えることができた。 ・HPについては、まだ更新が十分できていないコンテンツもある ・中学校での高校説明会、高校進学相談会、ハイスクールウェビナーへの参加を行った。 ・欠席連絡のオンライン化により、業務削減ができています。	B	・学校だよりの発行や回数について、評価できる。HPの更新に期待する。 ・ICT機器の活用等で、今後も引き続き業務の効率化に努めていただきたい。

●…県共通 ○…学校独自 ○…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり	
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>本年度の重点目標を達成するために、教職員一人ひとりが意思疎通を図りながら、計画的・組織的に教育活動に努め、さらなる学校活性化のための方策について検討することができた。</li> <li>北高ルーブリック評価表を活用し、生徒が自分自身について振り返りをするという試みを実践し、全体的には生徒の自己有用感・自己肯定感の高まりを確認することができた。</li> <li>新学習指導要領に適合した評価表を作成し、また、探究活動の充実を図るなどキャリア教育の充実を図った。新課程の評価について、今後も検討と改善を進めていく。</li> <li>本校の更なる躍進を目指し、生徒・保護者・地域の期待に応えるために、必要な情報が共有できる体制を整えていく。</li> </ul>